

## 「2024年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部1年 生野 尊彦

私は、現地での文化や歴史、交流を通しての国際感覚、新しい知見の獲得を、今回のチュラーロンコーン大学スプリングプログラムの目的としていた。そして、こうした経験は、国際化の進む世界で、私のキャリア形成の一助になると考えていた。

現地に到着すると、日本との違いに圧倒された。タイ語については、事前学習で少し学習していたものの、実際にタイ語を運用することは難しかった。タイ語の授業は、発音メインの学習であったので、街中ですぐに使えるように工夫されていて、タイ語の表現を覚えやすかった。現地に滞在して、一週間ほどすると、タイ語での料理の注文といった簡単なコミュニケーションをすることができた。また、タイの文化や歴史に触れる機会がたくさんあった。授業の中では、タイの政治に関する話からタイの伝統的な楽器を体験するなどさまざまなことを学習できた。そして、アユタヤの訪問やバンコク内の寺院、博物館の見学などを訪問して、タイの文化、歴史を実際に感じることもできた。特に、歴史的建造物を訪問して、感じたのは、タイ国民と仏教の関連の深さであった。タイの寺院に関しては、日本の寺院と違って、鮮やかな色合いのものが多かった。合格祈願や、病氣平癒といった特別な機会でしか仏教を意識しない日本人には、タイ人の仏教に対する考え方は新鮮であった。授業の中では、共同発表も用意されていた。共同発表では、タイと日本の学校の怪談の比較がテーマであった。怪談という特定の領域だけをとってみても、現地の学生の方の話し合いを通して、タイと日本の類似点・相違点を見出すことができ、それらの背景にある文化や歴史についても考察できたのは興味深かった。

今回のプログラムを通して、タイの文化、歴史から学んだ価値観は、日本にいたるだけでは感じ取ることのできないものであった。現地の人々の意見を聞くことで、自身の価値観が多様化したと実感している。こうした経験は、私のキャリアにいい影響を与えたと思う。

チュラーロンコーン大学スプリングプログラムに関わってくださった教職員、スタッフ、そして、現地の学生の方々に感謝申し上げます。